

高校生がメッセが撮った東日本大震災応援プロジェクト写真展

東日本大震災復興応援の写真を一堂に展示して「復興応援プロジェクト写真展」が11月3日から同月24日まで、文化ギャラリーで行われました。

プロジェクトは、応援メッセージの写真を展示公開するばかりでなく、今後各地で巡回展示をしていくために

必要な展示技術の習得研修を兼ねたもの。全国9校の写真部生徒9人と顧問の先生が来町、東川高校からも村形明音さん(17)が参加して作品の額装、パネル制作、会場展示の技術研修を行って応援メッセージ写真の展示公開準備作業をしました。



被災の様子を記録として残す取り組みは、今年3月11日の震災直後、埼玉栄高校写真部生徒の応援メッセージ撮影活動から始まりました。宮城県柴田農林高校がそのメッセージを全国の写真甲子園参加校につなげ、27校2千221枚の応援メッセージ写真となりました。その中には今年7月写真甲子園本戦大会の会場で宮城県石巻好文館高校を撮影したメッセージ写真なども入っています。(関連8ページ、「生き生きと」を参照)

婚姻届続々「1」並びの「11月1日」

二度とない「1」並びの2011年11月1日、全国各地から訪れた新婚さんが東川町で婚姻届を提出して人生の新たな門出を切りました。



この日の届け出は、道外1組、道内6組のカップル。予約も3組舞い込みました。人気の秘密は2005(平成17)年から始まった独自の婚姻届デザイン。東川町の役場窓口に婚姻届を提出すると、特製台紙に複写した婚姻届を添えて2人にプレゼントしています。

同時に2人の写真と新鮮な思いを書いたメッセージカードを文化ギャラリー

「株主の森」でアオダモ植樹

10月25日、東3号北6線の町有林「株主の森」で、持続可能な利用と森の再生を願ってアオダモ千200本を植樹しました。

株主制度プロジェクトの「水と環境を守る森づくり」。今年で3回目です。

目標額50万円で1株の投資額に対して1本の木を植樹し、水資源と自然の森を永く守り育てよう、という取り組みを賛同して投資した各地の株主、東京、札幌、旭川の各東川出身会の皆さん、町民合わせて約90人が参加しました。

植林場所は、前年にアカエゾマツを伐採した後の林地。まだあちこちに切り株が残って足元が悪い状態でしたが、それぞれ苗木1人10本程度ずつを植えました。



天人峡温泉で初の防災訓練



11月10日、天人峡温泉地区で初めての防災訓練が行われました。

2人が死亡、同温泉地区を結ぶ道路が決壊、寸断した昨年8月の集中豪雨災害を繰り返さないために、と旭川開発建設部と町が共同実施しました。

午前9時、局地的集中豪雨、マグニチュード7・5の地震が発生。宿泊客が負傷し、全員避難が必要という想定。発生と同時に、大雪消防組合東消防署から救急車が到着。消防隊員が負傷者を運搬する傍ら、宿泊客をてきぱきと避難誘導しました。

役場庁舎には対策本部を設置。北海道開発部(札幌)、旭川開発建設部(旭川)、現地対策本部(役場)の3カ所を衛星テレビ中継で結びました。開発建設部、上川総合振興局、役場、消防、陸上自衛隊、旭川地方気象台など関係各機関の間の情報伝達の連携を確認しました。昨年の豪雨で決壊した道道天人峡美瑛線は、ほぼ復旧工事が完了し、通常の車両通行が可能になっています。

総合文化祭で今年も「ぎやが芸能発表会」



11月3日、農村環境改善センターで第41回町民総合文化祭の芸能発表会が開かれました。10月22日から11月15日まで開かれた同文化祭恒例の芸能発表ステージ。日ごろのサークル活動の成果を披露しました。

午前中は、旭川福祉専門学校保育科の学生が人形劇、オペレッタ、ハンドベル演奏を披露しました。舞台づくり、人形、衣装、主演、演奏、脚本すべて学生の手作り。子供たちは食い入るように夢中になっ

会場ホールには、東川郷土料理研究会の会員が作った自慢の郷土料理も並び、試食作品の数々は「あつ」という間になくなる人気ぶり。

幼児センター「ドール」が遊びました

11月1日、プロサッカーチーム「コンサドーレ札幌」のマスコットキャラクター「ドール」が幼児センターにやってきました。園児250人と幼児センターの母子20人みんなで「ドールく〜ん」と元気にお出迎え。サッカー

ゲームで楽しく遊びました。昨年に続いての来園になりました。踊りながら登場したドール君、「みせて〜!」と子供たちからのリクエストに応じて得意技の側転技をさっそく披露。「どっだあ」「エッヘン!」。

